

水源禅師法話集 73

(2017年4月30日 大阪合宿2日目)

2017年10月30日

一乗禅の会



目次

| | |
|---|----|
| 水源禪師法話 | 3 |
| ブッターヌツサティ(Meditation On The Buddha 仏随念) | 3 |
| 水源禪師の小さい頃からの特殊な能力 | 7 |
| 手相は正しい瞑想法によって変えられる | 8 |
| 私達が知っている事と遺跡に見られる科学的な実際の疑問の大きな相違 | 9 |
| 魔が取りつかない仏教・仏の力 | 11 |
| EMEsによって完全にコントロールされている私達の現代社会 | 12 |
| ジャータカ物語「ナモブツダ、5匹のトラ」が教える【人を欺く事なかれ】 | 13 |
| ジャータカ物語「2匹の鳥と神木」が教える【良き因縁を作る】という事 | 14 |
| お釈迦様の究極な境地・体を通して【カルマと愛と無知。これをよく認識するべし】 | 15 |
| 【人を裏切らないで、心から誠実に生きていく】これが本当の【棚ぼたダンマ】..... | 16 |
| 良き師・法友と正道を精進して行くという事は【虚空蔵菩薩の世界】に直結して行く | 17 |
| 質疑応答 | 19 |
| 良き仏縁とただ座って行けば【仏の教え・宇宙の最高の教】の醍醐味がわかって来る | 19 |

水源禪師法話

ブッターヌッサティ (Meditation On The Buddha 仏随念)

去年教えたメッターヌッサティ(Mettānussati:愛の瞑想)、マラナーヌッサティ(Maranānussati:死随念)、アスバーヌッサティ(Asubhānussati:不浄随念)と四つなのですけれども、今日今からブッターヌッサティ(buddhānussati:仏随念)をご指導したいと思います。

何故この四つの教科、何でも四つが基本で、非常に大切なのです。これは、宇宙の中ではまず最初に入る瞑想法として、ここに入ればもう非常に高い位に入っていくわけです。この四つ。ただパオでは、西洋の方がいますので、アスバーヌッサティは外して、その代わりスケルトンメディテーション、これですね。それからもう一つは、32分身、身体の全部観て行きます。内臓から全て、こう汚物から全て。それが、ある程度アスバーヌッサティになって、それから今度はマラナーヌッサティとブッターヌッサティ、四つ。お寺によって手法がちよつと変わるみたいで、まあ一般的に南伝の方では、ブッターヌッサティ、それからメッターヌッサティ、マラナーヌッサティ、アスバーヌッサティの方が正式な教科に成っているようです。

去年説明した様にアスバーヌッサティで上手く行かない人もいるわけなのですね。それでシャーリプトラさんの教えていた弟子が出来なくて、お釈迦さまがね、アスバーヌッサティの代わりに蓮の花を見せて、一日でアラハト(阿羅漢)に到達したというお話をしたと思います。ですから、基本はありますけれど、バリエーションがあります。こうして南伝ではこの四つの教えが非常に尊くて、やっ行くわけなのだけれども、実は5分10分と、「はい、5分5分」次から次へと教科の瞑想をしたら、それじゃちよつと難しいわけなのです。それで去年言った様に、一つの教科だけジッとやらせて行って、そこから結果が出て来たでしょう？

それが正式な方法で、今度は今日、また今からブッターヌッサティをしますけれども。自己の瞑想教科をしたい人は自分でそのまま続けてして下さい。何故かと言ったら、やっぱり一体お釈迦様と言う人はどういう人かな？と心の中で願っていると思います。皆さん。このブッターヌッサティをやれば、お釈迦さまを観る事が出来るわけなのですね、もし過去で会ったとか。私の場合は観た場合には、時空的には合っているのか、天界から観たのか分からないけれどもちゃんと観えました。それはそれは、まあ口では言い表せないくらいの方で、これこそ大宇宙の大先生、これ以外、神もこれに従わざるを得ないという風なそういう方でした。

だから、まあそういう素晴らしい宇宙の極宝がこの地球にあるのです。やっぱりここにも書かれてある様に、今からちよつとお経を読んで説明しながら みんなで一緒にお経を読んで、その後やり方を教えます。御釈迦様の発音をしながら、その意味を説明して、それを良く覚えて聞いて覚えておいて、そしてその後、お釈迦さま、この絵があるでしょう？この絵がありますね。これをずっと少し2,3分見て、心に映像をこの映像を心に映します。そして目をつぶって、今私が言った事を頭に大体覚えておいてどういう意味か、それを何回も念じながら、こ

の映像を覚えておいて、今度映像をしっかりと映して今度私の言った事を大体覚えておいて、全部でなくても良いです。そして目をジーツと瞑ると。それを何回も繰り返しているうちに、パッとお釈迦さまが出て来る事があります。私の場合、そうでした。その禅定がなくても、観える事がありますから。普通は第四禅定でやるのですけれども、禅定に入らなくても、観える方が沢山います。それでこの手法になります。その手法、青不動明王の所で、瞑想した時に教えたと思うのですけれども、皆さんと一緒にやったその手法と殆ど一緒です。良いでしょうか？

私が何故パーリ語で唱えるかと言ったら、お釈迦さまがこの言葉で言ったので、このバイブレーションがここの時空に発します。そういう事で、仏界との繋がりが非常に上手く行くはずなのです。全てはこの世はバイブレーションなのです。私達もバイブレーション。だからこういう風に三次元に見えていますけれども、実際には振動だけです。

BUDDHĀNUSSATI

(仏随念 Meditation On The Buddha)

(パーリ語読経)

Buddhānussati mettā ca — Asubham maranassati

Iti imā caturārakkhā — Bhikkhu bhāveyya sīlavā.

偉大なる仏の慈悲をしっかりと感じながら、この世の非常に劣悪な社会とその死の世で、このお釈迦さまの四つの瞑想法をすと言う事は非常に尊い事であります。

Ananta vitthāra gunam — Gunato nussaram munim

Bhāveyya Buddhimā bhikkhu — Buddhānussati mādito:

何時でも仏の計り知れない高德な美德な力が、これを瞑想する方々に深く取り入りますように。それを良く考えながら瞑想しましょう。

Savāsane kileseso — Ēko sabbe nighātiya

Ahusu suddha santāno — Pujānam ca sadāraho.

仏だけが、ただ一人この世の全ての悪い汚れを取り去り、仏の計り知れない純粋さ、その心が人々の敬愛を受けます。

Sabbakāla gate Dhamme — Sabbe sammā sayam muni

Sabbākārena bujjhitvā — Ēko sabbaññutam gato.

仏は何時でも全ての事柄に対して正しくそれを見せる事が出来ます。そしてその仏の力によって、涅槃に達するでしょう。

Vipassanādi vijjāhi — Sīlādi caranehi ca

Susamiddhehi sampanno — Gaganābhehi nāyako.

その様な四つのヴィパッサナの瞑想、そして高德な戒律を教えられる方はこの仏一人です。その教えは、空よりも広く深く包み込む教えです

Sammā gato subbhan thānam — Amogha vacano ca so

Tividhassāpi lokassa — Ñātā nirava sesato.

その様に涅槃の仏の世界が吹き渡り、その最高の果物の様な言葉、それは三千大千世界、全てに行き渡ります。欲界、色界、無色界、三界の三千大千世界。

Anēkēhi gunoghēhi — Sabba sattuttamo ahu

Anēkēhi upāyehi — naradamme damesi ca.

ただ仏一人だけが、この全ての力を持っています。仏彼一人だけが、全ての間違いを取り去り、また正しく教えます。

Ēko sabbassa lokassa — Sabba sattānu sāsako

Bhāgya issariyādinam — Gunānam paramo nidhī.

仏は本当に偉大なる全ての世界の先生です。その素晴らしい最高の宝、法の教えはとても高貴なものです。

Paññāssa sabba dhammēsu — Karunā sabba jantusu

Attatthānam paratthānam — Sādhikā guna jetthikā.

仏のこの偉大なる教えは、全ての生きとし生けるものを慈悲で包みます。その高德の偉大なる力を私達に及ぼし、その最高の宇宙の力を私達に与えてくれます。

Dayāya pārami citvā — Paññāyattāna muddharī

Uddhari sabba dhamme ca — Dayāyaññe ca uddharī.

仏陀、彼自身の最高の知恵により、その完全なる知恵により、この教えを全ての生きとし生けるものに広げ、そしてその知恵に近付ける慈悲の心。

Dissamāno'pi tā'vassa — Rupakāyo acintiyo

Asādhārana nānaddhe — Dhamma kāye kathāva'kā ti

不可能なこの様な仏を見るという、これは考えられない仏陀の体得の、法の非常に稀な教えになります。

つまりこれをこういう風な事をしっかり覚えて、これを今考えながら瞑想していきます。考え

るのではなく、今聞いた事を大体心に留めて、ずうっと仏と言うのはこれくらい凄いもので、仏の体が出て来ると言う事を言っているわけなのです。もう最高のこれ以上の宝を観る事は出来ないですよという事。全てこの宇宙はバイブレーションで、この心がこのバイブレーションに合った時にスーッと出て来ます。本当に観えます。これはもう映画とか写真とかではなく、本当に具現化して実体が観える。摩訶不思議という言葉でも言い表せない感触。皆さん頑張っていて、ま、期待しないで頑張ってみてください。沢山の人がこの手法でお釈迦さまを見る事が出来ています。観たいという凄い一心によって、一生懸命やったお陰で、涙を流して観えたという方が居られます。

これは、全ては心なのです。その純粋な心によってそれが具現化しますから。だからテクニックで第四禅定でスーッと、確かにそれも観えますけれど、第四禅定を持つと言う事が非常に難しいのですけれども、それでなくても出来ます。私が強調したサティパターンでなくても、一般の方でこの手法でも、宇宙の最高の叡智に達する事が出来ますよ、という。まあまあ、お釈迦さまほど素晴らしい大先生はこの宇宙には居りません。私はそう思います。

そういう事で、まずお釈迦様のこの映像をしっかりと心に映し、そして目をつぶります。目をつぶって、私が今日本語で説明した事を思い浮かべながら。そちらの言葉だけ、映像はそのまま置いておいて、この映像はそのうち不可思議にと実体が変わる事がありますから。



水源禪師の小さい頃からの特殊な能力

この地球の裏話をしても・・・現実的には、一般的には隠されてこう動いていますので。昨日、ちょっと触りをお話ししましたがけれど。結局、私達は非常に「考える葦」と言われる様に、何か強い言葉でこう言われれば、昔からすぐそっちになびいてしまうのですね。

全ては実は心。一切は心なのです。心で出来ているから、私達の心がこう何て言うのですかね、しっかりしていない様に、葦の様にしっかり芯が出来ていなければね、すぐなびくわけです。こういう風に。またそういう風に、社会は作られているわけなのです。

私達はこの地球上の最高の霊長で、頂点に立つ生き物であると、そういう風に学校で教えられ、私もそういう風に信じて教えられて。まあ、そうにしか見えない様にまた教えられて。特に私は歴史が大好きでね、こう探ってその通り信じ切って「そうなんだ」と。学校でも日本史、世界史とか。まあ、小学校の頃からね、普通は読まないのだけれど、頭が悪いのにそういう風な歴史的な事を勉強してみたりね。特に小学校の頃から、(弘前市の)中央図書館に行って富国論(アダム・スミス 1776)という本を読んだり。それで、まあ分からない癖にそういう、こう今考えたら、とんでもない本ばかり読んで、学校の成績は駄目で(笑)。

そんな事で、まあ学校ほど正しい事を教えるところはないと完全に信じ切ってね。特に物理が大好きだから、実体で。理科が大好きでね。もうノート取らなくても、そら覚えでサラサラと解答が出て来るわけなので。勉強なんかしなくても、すぐそれが分かるわけで。

それで先生方には非常に可愛がられてね。小学校の時は悪ガキで最低なのだけれども、今度はそういう偉い先生方には良く可愛がられたわけでね。そういう風にとんでもない質問もするし。特に理科なんか(勉強が)トップの同級生、青森一番の彼よりも良く分かるから、皆びっくりして。サラサラサラサラと答えるから。という好きな事はどこまでもやってしまうわけですね。こう一生懸命に調べて。だからそういうとつても異端な所があるから、目立つようでした。

それで高校に入ってから「これは、どうも違うのじゃないか？」という、非常な疑問が湧き始めてから、あんまり勉強する気がなくなってね。でも、哲学だけは一生懸命やっていたわけ。何故か知らないけれど、「人の心とは？」とか、「人間は如何にして生きるべきか？」とか。

今日、同級生が尋ねて来てくれたけれど、彼とはしょっちゅう討論してね。彼、超秀才でね。私の高校の一番なのです。それでまあ、2人でワイワイガヤガヤやって。特に食べ物の話とかね。「何で、私達は(他の生命体を)殺して食べなきゃいけないのか？」とか。まあそういう風な、とつても今考えれば、変った生き方をしていたわけ。

それで、小さい時から非常に、今思えば心霊現象と言うんですか、火の玉はよく出会うのですね。幽霊もたくさん見るし。そういう不可思議な臨死現象も体験しているし。それでいながら、学校の教科は疑いも無く全て正しいとそう信じきっていながら高校時代から、「どうもこりゃ違うのじゃないかな？」と思う事がボツボツ見え始めてね、それからどうも「これで良いのかな？」という、自分なりの意思決定をして、「いやあ、このままでは、日本は大変な事になる」と。もう今からもう 50 年何年前ですね。いやあ、これは誰も言っても耳も貸さないし「じゃあいいや」と。「じゃあバイバイ。」と日本を出ちゃったわけ。もう多勢に無勢だし、聞く耳あるわ

けじゃないし。

まあそういう事で行ったのだけれども、やっぱり(同級生の)彼は若い時に討論しているから覚えているわけ。で、実際は、50年経ったらその通りになっているわけですね。という風にこう予知というのかな？教えられたわけじゃないけれども、そういう事が素直に見えるわけですね。学校の成績は悪くても(笑)。そういう事を観ながら点検していくわけです。その習性が今でもあるわけです。だからこれはどうも人間はこの世の最高の生き物とは考えられないし、実に小さい時からそういう幽霊とか天界の凄い方も見えるし。

それから特にエジプトには行きたくなかったのですね。エジプトには強烈な魔王がいるっていう事がちゃんと見えて、すごい魔王があそこにいるのですよ。だから「いやあ、あそこだけは行きたくないな」と。特にアフリカには魑魅魍魎がもうグッシャグシャいて「余程の力を付けなきゃ、私やられるな」と思いながら、あそこだけは未だ行ってない。ところが、もっとも興味があるところ、「あそこに出来れば行きたい」と思っているけれど、力がないし。

やっぱりカナダに住んでいて、瞑想を教えているときに、生徒に変な霊が付いてくるわけですね。「霊を取ってくれ。もの凄く苦しいから」と。それで話を聞いたら「いや実はカイロから来たブラックマジックをやる人に霊を付けて貰った」と(笑)。「へー！あそこはイスラムの国でそういう事は無いはずだけれど」と。

で、調べていったら、今ね世界で最高のブラックマジック帝国はカイロなのですね。で、よく調べたら、やっぱりエジプト文明というのは非常に密教に似ているのですね。密教に似ているわけ、タントラーナ。で、またずーっと調べて行ったら、キリスト教の方面から調べて行ったら、昔からインドとエジプトはもう激しくお坊さん達が行き来していたと。なるほど。特にイエスキリスト様の時代も、ツーカーでもう行き来していたみたい。インド洋の、地中海の方とか交易とか。だから簡単に行けたみたいです。それでインドと古代エジプトは似ているのだなと。

。

手相は正しい瞑想法によって変えられる

それで、私がインドを旅している時はね、非常にいつでも星の動きとか天界の動きとか非常に気にしながら、皆生活して。それで、太古のエジプト文明でもね、アストロジー(占星学)と言ってアストロジーに非常に強く影響されているわけ。それがまた、納得いく様な現象を起こすわけなのですね、予言とか、星の動きとか。でもそのうちにどうも大きなずれが出て来るわけです。

人間はね、誰よりも先の未来を知って、自分の徳にする事が大好きだから。これを買えばお金を儲けるとかね。どこどこに行けば幸運に合うとか。まあ何時何時ここで商売すれば上手く行くとか。良く調べたら、この「月火水木金」と、これも全てアストロジーで出来て。火曜日に仕事すれば大体上手く行くのですね。で、何かワサワサしている時は水曜日にすれば静まるのですね。「ああ、なるほど水曜日か」と。「火曜日は火だから上手く行くのか」と。と言う風に「なるほど、私達はこのアストロジーの世界で生きているのか」と。

それで、一番びっくりしたのは、ミャンマーでね、私達の申年とか、何時生まれたかとか。ところがあちは7つのブッダなのですね、月火水…どの曜日で生まれたかというわけ。一番大切なわけです。

それで、私がまだお坊さんになる前に調べて、ある所に行ったら、ミャンマーの特殊なアストロジーはね、手相を見たら大体分かるわけなのです。ミャンマーで仏教をやっているお坊さんは別として、(占いは)お坊さんはしないのですけれど。とつても手相とかアストロジーが大好きで、私の曜日を聞くわけです。「いやあ、どうも君は月曜日だ」と。「絶対この日ではありえない」と。それで調べてみたら、やっぱり「あーそうなのだな」と納得してずうっとやったら、私の書類上の曜日と生まれた実際の日は違うのですね。それでこの事によって、私は死ぬべき命が今助かっているわけなのです。これも天界の動きでね。私がやったわけではないのです。その本当の生まれた日を使っていたら、私は遠い昔に消滅していました。この世にいません。

という風に、このアストロジーもあるけれども、摩訶不可思議なこの因縁の世界があって、それで私の本当の誕生日と書類上の誕生日は違うわけです。私もよく、いやあ、私の死ぬ時期はここで(手相をみて)ちゃんと観えるわけ。手相に表れるから。「いやこれは、どうしたものかな?」と。それで、「まあ、仕方ないな」と思いながら。今度は、まあその間、何故か不思議とよく瞑想をするわけだ。瞑想をする。そしたら、手相が変わって行くのですね。「おやおや?」と。実は、手相で私の頭は非常に悪いはずなのに、こうスーパーマンみたいな頭になって行って(笑)。手相上よ、手相上ですよ。実際とは違う。

それで、生命体(寿命)も「いやあ、これだけ長生きするのか!」と変わって行くわけです。という事は、このお話は出雲大社の宮司さんでしたかね?実際に当たるも八卦、当たらぬも八卦で、手相は変わると言うわけです。「その運命もまた変わります」と。「確定した事はない」と。と言う風に言われるわけなのです。それもまた納得して。

それで、一番私が興味を持ったのは、金を儲けるというのではなく、「世の中はすべて金で今は動いている」と、若い時にそう思ったわけで。今日も(同級生が)言っていたけれど「お前は商売(の才能が)ゼロだからな」と。そうなのです。商売は出来ないけれども、金の動きは分かるわけ(笑)。それで、こうしてビルディングをタダで使わせて貰っているけれど。

私達が知っている事と遺跡に見られる科学的な実際の疑問の大きな相違

何故かと言ったら、何故貧富の格差があって、国々の格差があるのか?と。という風に原因を辿って行くわけなのですよ。それでやっぱり、「世界の動きは金の動きを見たら分かる」と。と言う事を、よく政治家とか哲学者とかそれから経済家とか、そういう方々が言われて。やっぱりね、大金持ち、良く金を儲けている人は、やっぱり金の動きから社会の動きが良く分かるみたいだけれども、それも完全ではないですね。どっかでどんでん返しがボーンと起こるわけ。「いやあ、これはどうしたものか?」と。

私達は小さい頃から「人間はこの地球上の最高の生き物である」と。いやあ、そうであるけ

れども、福沢諭吉さんの話もよく傾倒して「そういう神とかそういうものはない」と。「よく見たら、神社に押入ったら、石ころを拝んでいる」と。私もそういう話を聞いてね、失礼ながら神社の扉を中身を見たら、「いやあ何だ、まん丸い鏡があって、これが神さんなのか？」と。ま、そういう風に、偉い先生の言う事を「いやあ、どうなのだろうな？」と。ところが、そういう心霊現象とか色んな事を見て、天界の不可思議な方々との出会いもあって、「いや、どうもこれは違うんじゃないか」と。

トロイア戦争とかね、アテネとトロイアの戦いとか、そういう時は神々がまず戦うと。「いやあ、納得行く話だ」と。で、またラーマヤーナという壮大なストーリーがあるわけですね。やっぱり天界の神々がまず戦うわけなのですね。それで一番びっくりしたのは、神というのは非常に優れているけれども、Madurai・マドゥレイだったかな？タミルランドの首都に行ったら、ヒンズーのお寺があって、世界的に有名な非常にでっかい、寺院が建っているわけなのですね。それを見たら、神もヤキモチを焼いて、神も神を殺すという風な事が描かれて、絵であるわけなのですね。「いやあ、なるほど。それではトロイア戦争で神々が戦うのも当然だな」と。

と言うのは、まあおとぎ話で。まあ、そういう風に教えられて、そう思っていたけれど、ずうっと年を取って世界を回って行ったら、どうしても世間一般人間では考えられない現象に出会うわけなのです。特にマチュピチュという天空の建物を見たり、ユカタン半島のチェチェン・イツアのピラミッドを見たら、私は天文学も好きでアストロロジーとか、よく趣味で読んでいますので。

そして、チェチェン・イツアのピラミッドの上に立って見てみたら、「うわあ、これは、ただ事じゃない！」と。東西南北の四つの石柱をほら貝の穴の様にくりぬいてね、こういう風にちょっと、こうして見たら当然でしょう？こうして一角の角度しか、一点しか見えない様に四つのコーナーに穴を開けているわけです。非常に小さい空間のところ。少しでも動かしたら、その場所が崩れて見えなくて。もうびっくりしたのは、この地球自体を時計にしているわけなのですね。カレンダーとか時計、この星のあがり方という事が。私は星をよく見ているから、「うわあ、凄いもんだな！」と。

特にチチェン・イツアのピラミッドはね、春分の日、Spring Equinox Day という時に、蛇が現れる、ナーガとか。綺麗にその一角だけ。最近において分かったのは、ギザのピラミッド、あのエジプトね。あれも春分の日だけ、四角じゃなく八角なのですね。ちょっと引っこんでいるわけ、その陰影が出てくるわけ。私は、車をいじっていたもので、1/100 ミリとか 2/100 ミリとか、エンジンを作る時には、大体そこまで解るわけ、手の感覚で。で、これがね、巨大な 100m、50m の建築で上がった場合には、こういう鉄もない人達に作れるわけがないと。特に天空の城のマチュピチュは 200トンか 400トンの石を 500km 遠くから持ち上げて来ると。

常識では考えられないし、チチカカ文明のプマプンクという所には、この地上で最も固いダイヤモンドでしか切れないダイオライト(diorite: 閃緑岩)という巨石を綺麗に切っているわけです。数百トンとかいう。それが吹っ飛んでいるわけ、あっちこっちに。ただの石ではなく、ちゃんと組むように、非常に綺麗に現代でも機械でも作れない様に切っているわけなの。

昔の文明のない民の人達がね、どうしてこういう風な現代でも作れない。特にエジプトでは数百トンとか千トンとか言われるオベリスク、あるでしょう？あれを作って、地上に寝ているらし

いです。理由は現代でも、それを立て起こす技術がないという事。でも、それを切ってそこに置いてある。シリアにはシリアの宮殿とかお寺の底には、底の石がひとつ数百トンとか、巨大な石で組み上げて、上に行けば小さくなって行く。またペルーのそういう天空の寺院とかね、オリャタイタンボという所でも、巨大な石が下の方にはあるけれど、上の方はもう小さくなって、特に近年において作ったやつは、もう何かこれ猿が積み上げた様な積み方して、太古になればなるほど非常に綺麗に切って・・・これはどうも、「おかしいじゃないか」と。昔の方は鉄もないし、何にもないし、文明も非常に遅れているのに、もうそういう作られた建物とか寺院があるわけですね。

それで、何故それでは、そういう風に石で出来て、「いや確かに石々で、何でだろう？」と。ところがそういう石をね、現代でも切れないわけですよ。そのクスコの山に行ったら、サクサイワマンという名前の寺院があって、数十メートルの岩を綺麗に切ってあるわけ。ずうっと。巨大な家の様な巨石を綺麗に合わせて積み上げてある。それもただ積み上げているわけではなく、いろんな変形があっても、綺麗にピタッと合わせていくわけですね。「いや、これは現代でも出来ない相談だし」という風な疑問と、科学的な実際の疑問と、それから精神界の話を見て行ったら・・・。

昨日もお話した様に、あれは誰の絵だったかな？フィリッポ・リッピ、ルネッサンスの絵だったかな？マドンナ・マリア様の絵の遠くに、明快に UFO が描かれているわけ。アレキサンダー大王がね、フェニキアに攻めて行った時に、UFO の絵があって壁を破壊しているわけ。また、アメリカの人が言っていたけれども、ジョージ・ワシントンが英国軍を攻めるときに、UFO の助けによって破壊して。という風な事を言うわけなのですね。

それで、そういうものは「ない、ない、ない。」と教わっているけれども、実際の現象としてそういう風な絵が描かれてあるし、それからアメリカンの Constitution、憲法のサインにね、片隅に UFO が描かれてあると。見なさいと言うから見たら、その絵だけだけど。実際の現物は見てないけれど、やっぱり描かれて。昨日もお話した様に、1954 年に宇宙人がアメリカのアイゼンハワー大統領と 2000 人の最高の知識人が集まって、そこで話し合いをした、と言う事がつい最近公文書に出て来てね。

まあ、そういう風に殆どが私達が知っている事は、嘘か真か、どれがどれか見当がつかない様な今現状なわけなのですね。ただ一つ体験として、ずうっと小さい時からこうして見た時に、ただ一つ「お釈迦様の教え程、正しい教えはない。という。それで不思議と若い時から、偉いお坊さんに会って、こう最も大事な極意の見方を教えてくれるわけなのです。見方ですね。特に、今からもう 30 年前か、40 年前かな。30 年前。この方はもう当時、相当有名なお坊さんで、瞑想すれば空中に上がると本当に。マハーシ・セヤドーみたいに。あの方も空中にスーッと。だから先生によく怒られて「ちゃんと、座って瞑想しなさい」と(笑)。そういう方なわけなのです。

魔が取りつかない仏教・仏の力

その方から頂いた本があるのですね、教本が。その中で一番大切な事は、やっぱり空の世界も大切だけれど、無の世界を明快に説明しているわけ。それがやっぱり数年前に「あ、なるほど」と。虚空蔵菩薩とこの無の世界が密接に繋がって、虚空蔵菩薩のこのブツダによって私達の架空の世界が出来ているわけ。それが法華経に書かれて、またお釈迦さまが「一切は私の仮作である」と。だから最後に 13 仏が出て来た時に、虚空蔵菩薩様が最後に出てくるわけなのですね。虚空蔵菩薩様は大日如来様の上に何時でもあるわけです。

という風な科学では割り切れない、私達人間が最高の生き物であるとは当然思えない。この地上を歩きながら。特に北方インディアンは瞑想用のあれをキノコ食べるのです。それでロシア聖教も、古いキリスト教のね、ビザンチン文明のカソリックの教会もトップは皆丸く出来ている。みるあれはやっぱり昔からそういうキノコを食べて現象を見ると。未来を観る。

で仏教の場合は、一切それ使わない。ただただヴィッパサナーでいくという。そしてやっぱりお釈迦様、仏の教えは虚空蔵菩薩から来て、やっぱりそれが正解でね。西洋の人はそういう風なキノコとかハーブを使って、よく未来。特にブラックマジック帝国のカイロは、沢山そういうものを使うみたいです。そういう事によって、人を惑わすと。現象を起こして、サーッと、「うおー凄いい！」って言って、すぐ懂れて。そういう事によってすぐに現象起こすから、「ああ、凄いいものだ」と言って、修業なしに相当な所まで行くものだから、でもブラックマジックで、さっき言った様に魔が取り付いて。魔が取り付いて、もう苦しくて仕方なくて私の所へ来るわけ。それで、私がスーッと取って上げるわけですね。それだけ、仏の力は強くて。

EMEs によって完全にコントロールされている私達の現代社会

ちょっとお話したかな？スイスには CERN と言ってね、粒子高速機があるわけです。莫大なお金をかけて、100m、200m 地下に数十キロの加速器を使って。私は最初は「おかしいな。結果は出ないはずだ」と言って、まあ何かヒッグス粒子を発見したと。その後、何もなくて。その後のお話ではその地下でね、ブラックマジックのお祈りをしているのですって。否定したけれども、どうもそんな事をしていて。

と言うのも、ずっと前にお話した様に、アラスカでね、軍人さんが働いている時に、地上から宇宙に対して強烈な電磁波を発射する機械を設置したらしいです。それが HAAP であるのか何か知らないけれど。そして空中に発射したらね、真っ赤な魔がね、両手でグワーッと地球上に降りて来る姿を見たんです。それで、遮断しようとしても機械がもうスイッチが遮断出来ない様に完全にくっついていて、とうとう爆破したみたい。爆破してその次の日にそこで働いていた軍事関係の方全部、レイオフ (layoff: 一時解雇)。仕事なし。それでおしまい。

という風に、どうも私達はこの地上で最高の頭脳で全て動いている様だけれども、実は地球外、そういう時空を超える生命体で、やられているみたいで。それをつい最近 EMEs (Extraterrestrial Materialized Entities: 地球外生命体) と言います。という生命体で、この地球にしょっちゅうやって来て、どうも私達は戦争したくないけれども、させられていると。その

手法として、金の動き、経済的な事で絞りあげると。それで架空経済だから、架空経済なのです、今は。博打経済と言って、ツケでみんなやるわけですね、ツケで。でツケを誰が払うのかと言ったらアメリカの FDR。USドル。それが根拠は金で必ず払いますと。だから、ケネディ bonds と言ってね、ハーフビリオンダラー、500 億円の紙切れ。この代価はこれだけの金の価値で払いますと。

それで、日本のある高官がイタリアからスイスに向かう時に、確か二兆数千億円のそういう紙を持っているわけ。それが何故か、イタリア政府、警察に捕まって。ま、分かっているのでしょうけれどね。その為に、アメリカからそれをサインする人が1人だけいるわけ。で見たら「はい、はい、私のサインだ。それは本物。」イタリア政府としては莫大なお金が入って来ると思ったわけ。闇でこういうものを動かしているから。ところが、何とこれは日本の外交官だから、全てチャラにしてスッと消えてしまったのだけれども。それを朝日新聞の記事で見て、すぐその後消えて。その後、イタリアの息子の友人に聞いて、その街の記事を調べたらその通りだった。

という風に、この金の動きと、地上の建築物の動きとか、そうして実験してみたら、どうも私達は人間が奢り高く、全て私達が動かしている様ではないみたいです。丁度私達は、結局牛とか馬とか、そういう風に飼うみたいに、逆に目に見えない様な見える様な仕組みの中で完全にコントロールされて。で結局、私達が最高だと思っても、逆に、そういうわけの分からないものに家畜みたいに、頭から社会からそういう中で生きている様ですね。私の今の見解から見たら。これは凄い仕組みで。

ジャーカ物語「ナモブッダ、5匹のトラ」が教える【人を欺く事なかれ】

でも、これをただ一つ、打ち破る力は仏のこの瞑想の力なのです。何故それが確証して分かるかと言ったら、こういう風にジャーカ物語、お釈迦様のお話があるのですね。やっぱり、如何にして人間は生きるべきか。という事は必ず私達がいつも慈経を読んで、その中の最も大切な所は「人を欺く事なかれ」と。

私達は全く逆の、愛の世界ではなく魔の世界になるわけです。だから、広大なストーリーの欺きの世界の中で私達はどうも生きている様な。愛とは全く関係ない逆の世界で生きているという風な方向にしか見えないし。で、そういう事がジャーカ物語に書かれているわけなのです。

昨日もお話した様に、ある時代に王様が怒ってブラフミン(婆羅門)と比丘を全部国から追い出したと。いや、そんなバカな。お釈迦様は 2500 年前で、一体何処の国の話しかと。地球が消えて出て、遠い遠い昔の話なのですね。実は、過去の話ですから。お釈迦さまが菩薩の時代だから。最後のお釈迦さまが人間として生まれたというのはネパールで、カトマンドウの郊外に最後の地上での菩薩行をされたお釈迦さまの場所があるわけです。そこを「ナモブッダ」と言って、お釈迦さまの前世の骨が埋めてあるわけです。

それは、前もお話したと思いますけれど、5匹のトラの子がミルクを飲まずに、死にそうにな

っているお母さんのトラがいるわけです。そのトラさんを助けるために、自分の手を小枝で傷付けて血を出して、お母さんに舐めさせて、自分の身体を全部食べさせた。という風に何の為に、第三皇子のカトマンドゥのゴータマ菩薩がそんな事をするのか？と。そういう命を助けるという、人間だけが偉いのではないと。全ての生きとし生けるものとはとても尊いもので。人間を助けた方が良いのではないかと、ところがお釈迦様にとってはこの生命体を助けなければ、自分としてはもう人間失格という風に考えて、それで命を投げ出して、食べさせて、そしてこの5匹のトラが生きたわけですね。

でその事を知ったお母さんは気が狂う様になって、その残った骨を集めて塚を作ったわけです。もうお母さんはキチガイみたいになったのだけれども、ゴータマブッダが天界からお母さんに話しかけて「私は天界に生まれて全然問題ないから」と。私はその事は何回も。「生命が終わって終わっても、死ぬ事はない」と。「すぐに転生します」と。この事なのです。それで、その時に、お母さんをなだめて、そして次に最後に下りて来た所が、カピラバストゥで生まれたゴータマブッダなわけなのです。

この5匹のトラさんが、実は最初の5人がアラハトになったという。あの鹿野園(サルナート)での最初の説法。という風にその因縁。この因縁が出来なかったら、お釈迦様は出てこなかったわけです。また、「お釈迦様は4月の満月の日にしか生まれぬ」という風にスリランカのお坊さんは言っています。「それ以外にない」と。その時期以外に生まれることはない。という風にさっきお話した様に、私達のこの世界は本当に摩訶不思議で。月火水木…とか、申年戌年…とか、そういうアストロロジーと、それから因縁との繋がり合いがもう複雑に絡み合っているわけ。この中で如何にして生きて行くかと言ったら、やっぱりこの尊いジャーカタ物語のメッセージでは、慈経に書かれている様に「人を欺く事なかれ」と。それが本当の愛の生き方であると。人を欺くというのは、その原因は自我なのです。「我、一人。私だけ」。でこうして皆さんが集って瞑想するという事は、結局あなた方も成長するけれども、こうして良き因縁を作っているわけなのです。壮大なストーリーの中で生きているという事をちょっとお話しましたけれど、この事なのです。

ジャーカタ物語「2匹の鳥と神木」が教える【良き因縁を作る】という事

だから、ちょっとジャーカタ物語に戻ってお話しますが、やっぱり頭で覚えていたらね、とても大事なところを抜かして、骨みたいな事で肉が無いから、ちょっと読みながらお話しします…。

お釈迦さまがね、ある時、神木だったわけです。ゴータマ菩薩様は木の神様で。そこである森で暮らしていて、その時にいつもヒマラヤの山から鳥がその木に遊びに来て、またもう一人の鳥さんもヒマラヤの遠くから遊びに来て、いつでもそこで楽しくこうお話しして、ずうっと良き友達だったわけです。そしたら、木の下でジャッカルというね、オオカミみたいな小さい生き物、英語ではジャッカルと言うけれども、「どうしても、鳥が食べたい」と。「美味しそうな鳥がペチャペチャペチャペチャ話している」と。それで色んな手を使って、「地上に降りて来なさい。

地上に降りたらとっても良い食べ物もあるし。何でそういう高いところでペチャペチャ話しているの？」と。

でもこの二人の鳥さんは「どうも、このジャッカルはおかしい。私達を食べるのじゃないか？」と。それでもジャッカルはあの手、この手を使って一生懸命誘い出すわけです。「降りて頂戴。降りて頂戴。私はあなたの友達で、絶対に悪い事しないから、ここで3人で遊びましょう」と言うわけ。そして「降りて行ったら、どうも怪しい」と。それでその2匹の楽しく遊んでいる鳥さんがね、ちょうどジャッカルの側に行くと、食べられる寸前にパッと飛んで行くわけです。ほれみろ。お前は嘘つきで私達を食べるのじゃないか」と。それで、ヒマラヤへ飛んで行った。というそういうお釈迦さまが樹の神様でそれをずっと見ていたわけ。この2匹の鳥さんはね、1人はシャーリプトラ、お釈迦様の時代。もう一人は大目連。最高の神通を使う方で。そのジャッカルはデーヴァダッタというお話だったわけです。つまり、そういう風に楽しき良き友を作れば、この永遠に繋がって、そういう神木で遊んだおかげでお釈迦さまと出会って、最後に偉大なアラハトになって。そういうお話なわけです。

だから、この良き因縁を作ると、それは欺きなき付き合いで、その中で特にこういう風に皆さんと一緒に瞑想し合うという事は、如何に素晴らしい因縁を作っているかと。そういう風な太古のエジプト文明、ペルシャ文明、アストリア文明とか、もう数限りなく消え去りましたが、それよりもっと大切な事は、良き友と一緒に楽しく瞑想すると。本当の楽しい集いを作るという事が、非常に大切であると。つまり、そういう裏切りのない、だましのない付き合いと言うのが最高の付き合いであると。

特にこういう風にこうして皆さんが集って一生懸命精神を高めて行くという事は、さっきも昨日もお話した様に、宇宙の最高の栄光を受けているわけです。そういう事で、素晴らしき、こういう因縁を、私も皆さんに参加させて戴いて、皆さんも来られて、こうして修行、良い精神の友として一緒に心を、精神を向上させて行くという。これはもう言葉では言い表せない大変な事なわけ。特に、こういう風にお釈迦様の法の下で、ダンマ。本当のダンマで、こうして集い合うという事が本当のダンマで。頭で解析して行くという教理学、それもひとつのダンマだけれども、それよりもこっちの方がもっと大切であるという事なのですね。

お釈迦様の究極な境地・体を通して【カルマと愛と無知。これをよく認識するべし】

それで、私達はよくね、仏教講座とか、こういう本をよく読むわけなのですね。理解したいと。この中で、達磨大師様がね、パミール高原を通過して中国からインドに帰る時に、「このお釈迦様のお経の中で何が一番大切か？」という事を、長安を通過してパミール高原を通過して帰る時に、長安でこう言われたわけ。「一番最高に大切なお教はランカ教(楞伽経:りょうが経: Laṅkāvatāra Sūtra)である」と。ランカ経、これなのです。

それでもう一つは、金剛般若波羅密教とも言われているけれども、これを指摘して帰って行ったわけです。ランカ教は何故そんなに大切なのかと言ったら、調べてみたら、全ての仏は正道した時に、スリランカのスリパーダという山の頂点に登って、宇宙に対して報告するら

しい。

だから、私もその前に登って行った時に、確か日本山妙法寺のお坊さんが何故か私に親切にしてくれてね。教えてくれたわけです。「私は先に上がって行っているから、後でゆっくり上がって来て下さい」と。それで上がって行って、そして帰って来る時に、そこでコーヒーを頂いて帰って来る時に「あそこ見て下さい。あそこだけが非常に丸く緑でしょう」と。「あそこに UFO が降りたんですよ」という風に「なるほど」と。それで、私がそこに行って調べに行ったのですけれど、ゆっくり帰って来て、そしたらちゃんとおかゆを作って待っていて。

その時に私が体験したのは、やっぱりランカ教の言われる「お釈迦さまが正道した時に全宇宙の仏に向かって報告する」と。そこで、UFO が来てじっと止まったと。つまりさっき言った様に、EMEs (Extraterrestrial Materialized Entities: 地球外生命体) そういう生命体は時空を変えて、その時代に戻ってお釈迦様が何を言ったかレコード出来る様な力があると思います。だから、岩の中でも、それから大宇宙の次元を超えてパッと出て来たり、自由自在なの。

宇宙的にはそんな事で、達磨大師様が指摘したのはこのランカ教。この中で何を言っているかという事を皆さんにお話ししたいと思うのですけれどね。でなければ、空想科学から飛びに飛んでとなるからね。ここでちょっと抑えて。

結局この中で、究極の境地の事を、お釈迦さまが言われるのは、自我の心の、その自我の発生状況と発生する時空ですね。時空とそれからその妄想と生死、つまり十二因縁のパティサンディ(patisandhi: 結成)ですね。「カルマと愛と無知。これをよく認識するべし」と。つまりこの世界はダンマヌパッサナー(法随観)を深く研鑽して、「観自在菩薩行深」と。サンカーラを深く観ると。これを深く観る事によって、妄想とそれからアッタ(atta: 自我)、アナッター(anattā: 無我)、自己の境界を観る事が出来る手法を教えていったわけ。

その題目の事をこういう風に、ランカ教のスリパーダで報告したわけ。これはどの仏も同じ事を言っているはずです。仏は永遠に真実しか言わないから。その究極の世界はこの微細な所なわけです。これは人間の体を通して体験出来る事であって、さっき言った UFO がそこに落ちて、時空を変えてその時間いても、この人達の心では分からない様に出来ています。

何故かと言ったら、私もその時にはもはや、ちょっと変わった神通を持っていますから、その時手を当てたら、そこを降りた所の木々が倒れてるわけですよ。20年経っても、焼けて。当ててみたら、そのバイブレーションをみたら、「あ、この方達はどうも蟻とか蜂みたいに機械的な生命体だな」と。「これは愛のない世界だ」と。でもこういう愛のない世界でも、お釈迦様の言葉を知る為にそういう風に降りて来るわけなのですね。

【人を裏切らないで、心から誠実に生きていく】これが本当の【棚ぼたダンマ】

だから、天主教のカソリックのバチカンには、二千年来の全ての経典を納めてあるらしい。特に 1647 年チベット大蔵経を、1647 年ですよ。ちょうど江戸幕府が開關したのは 1603 年。その辺りに、もはやバチカンから使節団を、広州を通してチベットに上がって行って、そして「

チベット大蔵経を手に入れたい」と。「いやあ、これはあと40年かかるから」と言って。で、降りて行って40年間後にやって来て、7年間待ってそれを完成したものを持って行ったらしい。そういうイギリスの文献に書いてありました。

だから、ここで小さい時に歴史が好きだというのは、何の障りもなく調べられるわけですね。そういう歴史的な現象とか、特に英語の世界で生きているものだから。日本語では難しいと思う。何故かと言ったら、それを訳す方がいるのか、文献があっても、何処かの図書館にそのままあるのか。非常に困難だと思う。

そういう風に宇宙の時空を変えるそういう生命体であっても、こういう風にサティパターンナ(satipaṭṭhāna:念処経、四念処経)とか、こういうさっき言った四つの瞑想法の中のブッターヌツサティ(buddhānussati:仏随念)とか。こういう事は機械文明では出来ないですね。特にこういう柔らかい不完全な体の中でこそ、心のバイブレーションを観る事が出来るけれども、機械では絶対観えない世界。これは全て因縁の絡み合いによって出来ているから。

だからその因縁もね、さっき言った様に、遠い遠い昔からこのデーヴァダッタ尊者がお釈迦様を何時でも悪い事をしながらでも高德な方の側にいるものだから預流果まで行って。7回後に預流果から涅槃に達するのだけれども、7回地獄で暮らすかも分からないわけ。最後の最後の何時の時代か分からないけれど、宇宙が何回も滅びて無間地獄から最後の時に、地獄の中で突然パッと涅槃に達するかも分からない。その間、無量の時間帯を7回過ごさなければ、気の遠くなる時間帯なんですね。その一段落ちる毎に。つまり、代価を払わなければいけないわけです。棚ぼたはないわけ。棚ぼたと言え、人を裏切らないで、心から何時でも誠実に生きていくという、これが本当の「棚ぼたダンマ」。

良き師・法友と正道を精進して行くという事は【虚空蔵菩薩の世界】に直結して行く

だから瞑想を良く出来るという事も非常に大切ですけれども、こういう風に良き因縁を作るという事がもっと大切だという事を、こういうジャーカタ物語でも深く深く教えられて。非常に難しいランカ経。現在日本でランカ経を深く教える講座があるかどうか分かりませんが。達磨大師様がこれを非常に大切だと言って、あんまりそういう禅寺からこういうお話聞かれませんね。

でもこれはね、達磨大師様がインドに帰る、インドから来たそのストーリーは、確か臨済宗の「降臨伝」という中に書かれて、中国版ですよ、日本版ではなく。中国版の中に書かれていたはず。ちょっと間違いかも分かりませんが。そういう風に私の口から言ったわけではない。そういう事を紹介して。結局、要はね、この本を頭の中に詰めても、パティサンディ、十二因縁をしっかり体験して、そこで生死をちゃんと、結局、宿命通、天眼通を持たなければ、この意味が理解出来ないはず。つまり妄想に終わってしまうと。

だからこうして皆さんと一緒に瞑想しながら、そして良き友として一緒に和気あいあいと正道を精進していくという事は、さっき説明した様に虚空蔵菩薩の大世界に直結していくわけなのです。だから、想像を絶する事を私達はここでしているわけ。何故か私がこうして説明

しなければ、こういう風なお話をしなければ、これは完全なただの瞑想会になってしまう。そこでやっぱりそういう話を聞きながら瞑想するのと、ただ座って瞑想するのでは、やっぱり全然因縁が違って来ます。ま、そういう事で。

今日のダンマ、ちょっと空中を飛んで、宇宙からクルッと周って、また最も難しいランカ経のちょっと触りを説明しましたがけれども、それで私はあまり説明しないのですよ。仏教の經典。これを深く一つ一つ説明したら、この中で誰も体験してないから、書かれている事が本当であっても理解し難いわけなのです。これが本当であっても、理解するにはこの言われている事を体験して初めて、このお釈迦さまの言葉が宇宙最高のものである事が分かる。

だから、今まであんまり經典の事をやらなかったのはここにあるわけで、ただジャーカタ物語はお話が良くスッと入り易いし、でもこれはもう無量永劫の時間帯の中で体験された壮大なストーリーがまたこの陰にあるわけなのです。だから、一つのお話を文献を追って説明したら、まあ一週間ぐらいかかる様な。それをサッサッサとジャーカタでタンタンタンと書かれているから、やっぱりこのジャーカタ物語も、私が体験した様な行者さんから聞けば、良く分かるけれども、やっぱり教理だけでは難しいと思う。特に文化系の理工から外れた説明だけでは、説明しきれない事が一杯書かれているから。だからそこは絶対に外してしまいます。

何故かと言ったら、最も不可思議な聖書の中、バイブルの中の話はエゼキエル(Ezekiel; Sumerian Eze= 王 Ki= 地球 El=神)という章があります。そのエゼキエルの聖書の中の最初の出だしは、「神がね、宇宙船に乗って降りて来た」と。そして下りて来た時は、ちょうど今、ドローンってあるでしょう。パーッとヘリコプターみたいに。あれと同じなのです。ああいう乗り物で降りて来た。ところが、カソリックのお坊さんがこのエゼキエルという本を書く場合はここを外します。でも聖書には載っています。つまり教理学では説明出来ないから外してしまうわけ。

だからエジプトで数千トンのオベリスクとか、千トン二千トン、そのまま寝て、ただあると。どうして作ったか、説明なしと。そういう風になるわけ。私達は「全て分かった、分かった。ああ分かりました」と。だから妄想の世界で生きている。ま、そういう事で、大体後は質疑応答でいきましょう。



質疑応答

良き仏縁とただ座って行けば【仏の教え・宇宙の最高の教】の醍醐味がわかって来る

【参加者】

瞑想するとき、座る時なのですけれども、楽に座りたいのですが、なかなか上手く力が抜けない時があるのですが、それはちょっとどの様にしたらよろしいのでしょうか？

【水源師】

それは仕方ないですね。何故かと言ったら、瞑想が上手くいった時は心がスーッとするわけなのです。それがめったに上手く行く事もないわけなのです。いや本当に、何年やっても。でも、たまに一年に一回くらいは上手く行く時があって、本当に何とも言えない素晴らしい気持ちになるのだけれども。でも、そういう事があって欲しいと願いながらも、まあ砂を噛む様に毎日毎日やった時にはご褒美が出て来るわけ。時には不可思議な現象がスッと降りて来たり。時には想像を絶する様な体験を試してみたり。とても不可思議な。

ところが、瞑想が上手になってね、上手くなったら、そういう不可思議な素晴らしい体験が今度消えてね、それは深くは見えませぬけれど。何時でも禅定入って、その気になればガッと座って一人ででも。その代わりね、結局砂を噛む様な行で上手く行かなくても、頑張ってる時には天界から素晴らしいご褒美がスッと来るのだけれども。逆に上手くいった時には、あんまりそんなご褒美は来ません。

だから、ま、上手く行く行かないは別として、ただ座って行けば、その内に段々仏の教えの醍醐味が分かって来ます。何故かと言ったらこれは宇宙最高の教えだから、ボタンを押せばすぐ解るといふコンピューターではないわけです。また、そういう安物のコンピューターではないわけです。私達の心はもう想像を絶するスーパーコンピューター以上のコンピューターを持っているものだから、下手したらすぐコンピューターを壊してしまうくらいなものであつて。

やっぱり操作を慣れていくには、それだけの時間と力量と長い時間が掛かって初めてこのスーパーコンピューターを操作出来るわけです。それを観自在菩薩行深と。深くサンカーラを修行して行つたと。その解析をみたら本当にコンピューター式で、そのインプット、解析、その作用でこの五感を通して。という風に非常によくコンピューターに似ているのだけれども。これは本当にスーパーコンピューターで、そう簡単に。作用は解るけれど、もう少し深い阿頼耶識の仕組みとかが簡単にいくとか。それを解つたにしても、阿頼耶識の内容はこのジャーカタ物語の手本がありますから。ただ心を誠実に生きて行って、こうして本当の真理を言われるそういう方に出会う場合に、これが生き始めるわけですね。そうでなければ「あ、ジャーカタ物語、素晴らしい」とおとぎ話に終わってしまう。

私も今から 30 年前、トロント大学の東洋文献室でジャーカタ物語見たら、「いやあ、楽しい

な。何を見ても楽しい」と読んだのだけれども。やっぱり深く研鑽しここまで解るには、その間また何十年も修行してここに到達して。逆に読まなかった方が良かったかも。そこにのめり込んだら文学仏教に入って行ったかも分からない。でもそういう因縁とかね、トロント大学には世界最高の仏教の経典が全てあるわけです。「いやあこれは素晴らしい。仏教が大好きだから隠居したら朝から晩まで、おにぎり持って行って、手弁当持って行って、ああこれはタダで本読める！」と(笑)。そう思ったのだけれども、そういう素晴らしい時間はなくて、世界のあっちこっちとバックパッカーで、「明日、何を食べようかな？」と(笑)。

ま、そういう事で。つまり因縁の力で動かされてます。思った様には行かない。



水源禪師法話集 **73**
(2017年4月30日 大阪合宿2日目)

2017年10月30日 発行